

ピースクラブ通信

No.90

発行 所在地 連絡先
 社会福祉法人 ピースクラブ
 〒556-0014 大阪市浪速区大国二丁目十一番一号
 TEL 06-6647-1207
 FAX 06-6647-1208
 E-MAIL peaceclub@m01.p-c-ne.jp
 http://w01.p-c-ne.jp/peaceclub/

開拓者魂君が行く

魂君砂漠に立つ

堀悦雄

北海道で牧場主になれるチャンス！
 しかし、あまりに高額な借金（ハードルに勇気が出ない魂君）
 そんな時ふと目についた新聞の求人広告「潜水士募集、任地クエート」とあった。

つま先から頭のとっぺんまで「牛」に浸かって暮らした魂君、牛は好きだけど、しばらく離れてもいいかな？と思うと潜水という知らない世界に興味がムクムクと、それに日本を飛

び出して広い世界を見てみたい！

思い込んだら止まらない魂君、すぐに潜水会社へ。

無事？採用されて北海道の現場で見習い（昔ながらの徒弟制度の厳しい世界で潜水士の世話を船上でダイバーの指示に従い船のウインチを操作）半年ほどしていいよいよクエートに出発。

ついたところは砂漠の中に立つ百人ほどの労働者が暮らす建設飯場（日本のゼネコンが受注した海岸に港を作る仕事で飯場は日本人のみ）。

前から居た人は真っ黒に日焼け

して日本人には見えない。日中は40℃を超える日々（中でも暑い日は50℃を超えた！）、雨も降らず、時々砂嵐が襲ってくる（車の前面は塗装が剥げ雨が降らないので銀色の鉄板、フロントガラスはスリガラスのよう）

しかし、湿度が低いのでいっぱい汗をかいているのにシャツが濡れない、夕方にはシャツが白く塩を吹く。

ペルシャ湾の奥のクエートは禁酒、女遊びもないイスラムの戒律の厳しい国で（日本のおっさんが酒無しで済むわけもなく、会社は日本から持参した

台船の船底にウイスキーとビールを隠して持ち込み、月一で少しづつ酒を配給していた）。

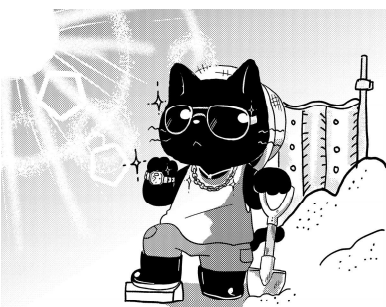
休みの日には街に出かけ地元のナン、シシカバブ、デーツなどを食べたり、税金がないので（当時世界2位の産油国でお金持ち国）貴金属や高級腕時計を買ったり、レーバンのサングラスを皆かけていた（魂君も）。

暑いけど飯場と現場は日本とあまり変わらずそんな中で一年半ほど過ぎた。港もほぼ完成で後片付けの20人ほどが残った。

れた魂君、アイよと引き受けてしばらく飯炊きに変身。そして、いよいよ帰国。

ここまで来てまっすぐ帰るのが惜しい魂君、クエート↓日本の旅費が出る会社と交渉、不足分は自己負担でエジプト、ケニヤ、セイシェル、スリランカ、ネパール、日本のチケットを手に入れた。

ガイドも付かず一人きりで、少し英語は勉強したがほとんどしゃべれない魂君、無事日本に帰りつけるのか？



フラダンス発表会感想 と私的フラダンス

森本さゆり

この前の10月19日にフラダンスの発表会があったのですが、先ずは発表会のプログラム作り。『今年はパン売りがないので、プログラムを作ってね。』と明美先生に言われ、あらう。私の一番苦手なことなのですが、気合をいれて、みんなと一緒に作り上げたものです。あかねちゃんが描いてくれた飾り枠に弘子さんが色を塗ってくれて、ゆりえちゃんの書いてくれたフラのタイトルを切り貼りました。いつもよりいいでしょう。そうこうしているうちに、発表会が始まって、一番おどろいたことは、いつもはじつと立ちんぼうだった弘子さんが、曲に合わせて体を動かしていたよ。やればできるやんと思いましたが。

それから、郁ちゃんの踊りはとてもかわいらしいですよ。それに、ATC教室と本町教室の人たちは去年より力が抜けて優雅に踊ってましたね。

それに、いつもお世話になっている、三角さん、踊り手に合わせて甘い歌声は聞惚れました。

私の踊りは大人数で踊るとみんなのパワーをもらって体が動きやすく、楽しかったです。踊った後のパーティーでのお酒が格別に美味しかったです。素敵ない日でした。

ということで、私がなぜフラダンスを始めたのかというと、ハワイに行きたいわけではなく、明美先生に「座って踊ったら良いやん。」

座って踊るnohoというフラダンスがあるよ。」と知ってくれたんで、やってみました。やってみたら、これは楽しくりハビリになるやん。と思いがら続いております。



それに髪型もフラ仕様で右側に花飾りをつけるのですが、髪が短いとつけにくいので、右側だけをのばしております。みんなはかっこいいと言ってくれますが。これを切ったらフラを辞める時ですが、まだまだ続けていこうと思っています。明美先生よろしくお願いいたします。

私的フラダンスは楽しいハビリ皆さんも楽しいハビリ、いかがでしょうか。
森本さゆりでした。



与太話

と 障老者を考える

私たち障がい者は高齢化社会デザインを先取りする存在だったのでございます。昨今高齢化の波は私たち障がい者をも飲み込み始めたのであります。

メンバー様のおひとり毅様は、重い障がいをお持ちなのにミヨに元気だったのでございます。与太と同じCP(脳性マヒ)で、あの障がい者ぷりは素晴らしい！お楽しみのパン販売の日には「ヴァーン！ヴァーン！」(パン！パン！)騒ぎ倒し、出先では誰もいないのに「ワァー！ワァー！」と太に「誰かおらん#」などと苦言を言われながらも、なんだかんだおもしろくやって来たのであります。コロナでパン販売が中断、そして再開した

のですが、ここの二、三年毅様！こちらからの最低限、問いかけも反応が薄いものですから、ついつい語気が強くなる始末でございます。歳も歳ですから老いているかも？と思ひ始めたのは与太と同じく老いているからでございます。この頃筋力が落ちたのか？身体も支えづらくなり、販売中、横に傾くことも多くしんどそうな毅様でございます。

この間、姫野氏提案で、販売会議を招集したのであります。毅様を交え話し合ったのでございます。毅様の身体ご負担を一番に考え、火曜日販売時間の短縮と、体調不良の場合必ず休むことを徹底、毅様ご納得の上決まったのであります。

それに致しましても、歳を重ねますと出来たことが、出来なくなるのは自然の摂理でございます。間、時間の流れは理不尽なのであります。しかしよる歳を感じ、受け入れることは大切なのでございます。与太も当たり前のように薬が増え、見えない気圧様に影響を受け、季節の変わり目神経痛など影響を受け、寝込むことも多くなったのであります。

もうすぐ与太還暦！ヤサグレながらもよう生きた！
「最近でございます。与太は坐骨神経痛を煩い、障がい者モドキから、ちゃんと障がい者になったのであります。激痛に耐えまだ歩けますが、歩けなくなると言う感覚が、リアルに近づいて来るのを感じることは、物書きとしてオイシイのでございます。

何が待っているようが「楽しんであげましょう！」でありました。与太が高齢化しますように

皆様も、確実に高齢化して行くのでございます。ピースクラブでのお話ではございません。障がい者高齢化時代はもうすでに始まっているのであります。介護者さん(ご家族も同じ)ように高齢化して行くのでございます。どこかでピースクラブ世代交代も必要なのはわかってます。これが一番難しいのであります。障がい者介護にマニュアルはございません。日々手探り、日々発見なのでございます。障がい当事者さんがお伝えしようとしていることを、感じ取って、動くようとしてくださる方であれば難しいのであります。

先人の方々は自ら街角に立ち介護者募集のビラを手渡し、一からその人生をかけ、お互いケンカしあえるくらいの介護者

さんを、根気よく育てて来たのでございます。
今の時代私たち障がい者は、制度である程度守られているのであります。だからと言って介護者さんと人間関係、信頼関係を築かないで良い訳ないのでございます。
重ねて申します。「障老者を考える」は介護者さんの確保なしでは考えられないのであります。
医療の進歩は与太をなかなか死なせないものであります。想像しますとゾツとするのでございます。やべえ#介護者さん育てなければ！今さらのように危機感を持つ与太であります。

所詮：与太話でございます。
パパラッチ与太

グループホームの成り立ち & 韓国行ってきました

大西 洋子

私の中ではグループホームという発想はなかった。

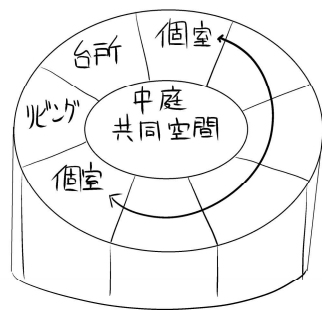
皆でいっしょに生活して助け合う、そんなイメージでした。

ただ、グループホームにするとお金が入ってくる(国からの支援費)ので、利用したつもりでした。

本当は自立してほしいのに結局20年もグループホームで暮らしている。何がいかかわらないけど今はグループホームが生活のもとになっている。

年をとってきて「共に暮らす」というのが課題になってきて、もう一度どんな暮らしをしたいのかで共同住宅を作ろうかと考えている。

図のような中国の円形住宅。



これを平地では難しいのでピースのビルのようなものでも共同住宅として考えようかな。ねたきりの人があったとしても、みんなと共同ならつきそいの人もホッとする時間が取れて安心感もある。

そしていつまでも刺激がある生き方をする。

ヘルパー制度も半分「破綻」しているし、人手不足もある。

いいヘルパーさんもいるけど、お金と時間が限られているので、どうにも画一的になる。

人間関係にお金絡むとどうしようもない。一人一人の生活が、安月給にからめとられて身動きができない。

生活基盤をしっかりとって、もっと自由な関係の中で助け合うことをつくりあげたい。

※ ※ ※ ※ ※

「11・22事件」50周年で、ソウルに行ってきました。

在日韓国人留学生スパイ捏造事件(1975年)発生から50年。

日本では、対岸の火事ですが、韓国では政府主導で、日本の救援会50人も含めて記念集会が開催されて、自分なんかは何もしていないのに混ざってもらいました。

死刑囚だった人にいろいろ世話を焼いてもらいながら、感動の連続の旅でした。

「よくぞ、生きて、もどってくれました。」

皆がやさしく、すごい体験(拷問)などを経て、それでも、日本人を仲間として大事にしてくれる心根にふれて、日本の運動圏の停滞の底のなさを思いました。

「ありがとうございます」
とにかく、自分までも「生きててよかった」と思いました。

与太郎、歳末に寄せて

橋本 与太郎

ヒートテック

モウ：師走

トキニ、ウツムキ
トキニ、振り帰ル

繰り返ス

タダ：茶化セバ良イ

ソレハツナガッテ：イク

by 与太郎

年末年始のお知らせ

忘年会 12月26日 (金) 18:00～
新年会 1月11日 (日) 14:00～
キジムナーは 1月5日から営業しております

◇ 編集後記 ◇

一年ドタバタ、特に夏の暑さをこらえているうちにあつという間に冬が来て年の瀬を迎えることになりました。皆様もどうぞ体にお気をつけてよい新年をお迎え下さい。